

## 儀禮の解明 — 齋に對する陸修靜の影響

フランシスクス・ヴェレレン  
(フランス國立極東學院)

道教の歴史に對する陸修靜（406-477）の貢獻は、とりわけ以下の三つの點について長らく認められてきた。すなわち、天師道教團の改革、最初の道教經典の編纂、そして當時成ったばかりの靈寶經（400年ごろ）とそれが傳える佛教の影響を受けた新たな祭式の獎勵である。陸修靜は初期天師道教團の斷固たる擁護者であるかに見えるが、同時代の宗教的實踐についての彼の見解には、上清經や靈寶經からの道教の新たな啓示ばかりでなく、大乘佛教の信仰や儀禮に對する中國人の強い興味も取り込まれている。陸修靜の宗教上の信條や人柄を鮮やかに知ることができるのは、五世紀の南中國で弟子たちや道教教團に授けられた彼の教えが記録されているおかげである。とりわけ陸修靜の講義説法は、齋の儀禮の執行に先行する彼の個人的見解を如實に傳える。本稿では、現存する陸修靜の著作の梗概を示しつつ、齋の目的と意味、その執行の規則、そしてその實踐者に要求される心構えについての彼の教説に焦點を合わせる。

Franciscus VERELLEN フランシスクス・ヴェレレン

1952年生

フランス極東學院（EFEO: École Française d'Extrême-Orient）院長 Ph.D., Habilitation（パリ大學）

主要著作 *Du Guangting (850-933): taoïste de cour à la fin de la Chine médiévale* “The Twenty-four Dioceses and Zhang Daoling: spatio-liturgical organization in early Heavenly Master Taoism” “The Heavenly Master liturgical agenda: The Petition Almanac of Chisong zi” *The Taoist Canon: A Historical Companion to the Daozang* (Co-editor) ほかに多数